

2026年3月期

決算説明資料



ものづくりのための、モノづくり。

田辺工業株式会社

2026年5月13日

証券コード | **1828**

01 | **会社概要 P3**

02 | **決算説明 P9**

03 | **中期経営計画「TRY2030」進捗 P24**

01 | **会社概要 P3**

02 | **決算説明 P9**

03 | **中期経営計画「TRY2030」進捗 P24**

コーポレートスローガン

ものづくりのための、モノづくり。


設立以来、エンジニアリングの力で産業社会と地域社会の発展への貢献を企業ビジョンに掲げ、プラントエンジニアリングを中心に国内外へ多角的に事業を展開しております。

社名	田辺工業株式会社 TANABE ENGINEERING CORPORATION
設立	1969(昭和44)年2月1日
資本金	8億8,532万円
代表者	代表取締役会長 四月朔日 義雄 (わたぬき よしお) 代表取締役社長 水澤 文雄 (みずさわ ふみお)
株式登録	東京証券取引所 スタンダード市場 (2007年3月上場 証券コード:1828)

社員数	1,044名(連結) (2026年3月末時点) 809名(単体)
本社所在地	新潟県上越市福田20番地 東京都千代田区神田駿河台2-2御茶ノ水杏雲ビル4階
海外子会社	TANABE(THAILAND)Co.,LTD. TANABE ENGINEERING SINGAPORE PTE.LTD. TANABE TECHNICAL SERVICE MALAYSIA SDN.BHD. TANABE ENGINEERING ASIA CO.,LTD.

国内外事業拠点の展開により、機動的かつ高品質なエンジニアリングサービスの拡充を目指す

海外



タイ
TANABE (THAI LAND) Co., Ltd.
設立: 1996年
事業内容: 表面処理事業、省力化機械製造

タイ
TANABE ENGINEERING ASIA Co., Ltd.

マレーシア
TANABE TECHNICAL SERVICE MALAYSIA SDN. BHD.
設立: 2023年
事業内容: 産業用プラント設備の設計・施工

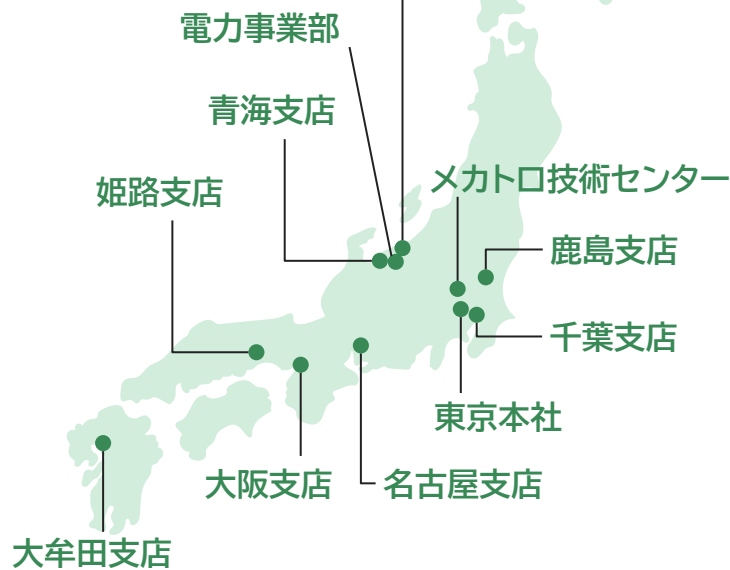
シンガポール
TANABE ENGINEERING SINGAPORE PTE. LTD.
設立: 2011年
事業内容: 産業用プラント設備の設計・施工

国内

本社・支店: 12カ所／営業所・出張所: 12カ所 (計24カ所)



本社・北陸支店



電力事業部
青海支店
姫路支店
メカトロ技術センター
鹿島支店
千葉支店
東京本社
大牟田支店
大阪支店
名古屋支店



東京本社



大阪支店



青海支店



千葉支店



鹿島支店



メカトロ技術センター



電力事業部



姫路支店

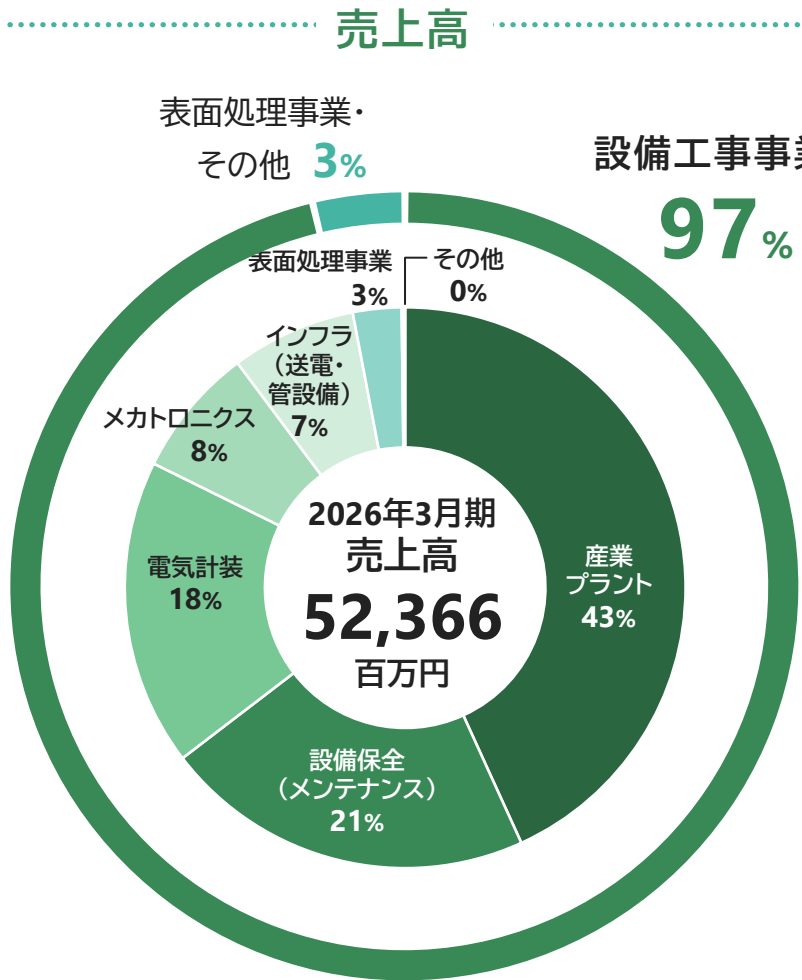


名古屋支店



大牟田支店

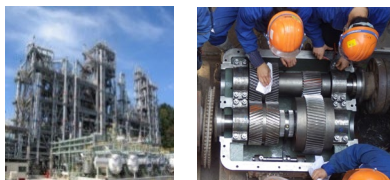
産業プラントを中心とした総合エンジニアリング力で、社会の発展へ貢献する



設備工事業業

プラントエンジニアリング分野

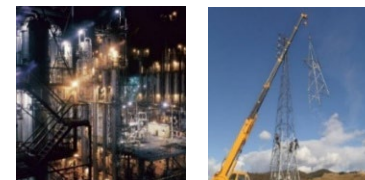
多種にわたるプラント設備の設計から施工、機器製作、メンテナンスまでトータルに対応し、社会の「ものづくり」に貢献する。



産業プラント部門

エレクトロニクス分野

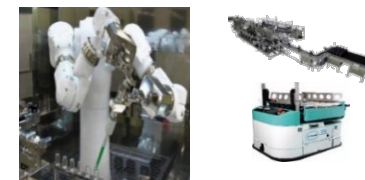
- 公共インフラからプラント設備まで、あらゆる電気設備の構築を行う。
- 各電力会社とのパートナーシップによる送電設備の建設・保守や、各種発電設備の設計・施工を担う。



電気計装部門

メカトロニクス分野

各業界に向け、生産工程における最適な自動化・省力化装置を構想設計の段階からサポートし、オートメーション化ニーズに応える。



メカトロニクス部門

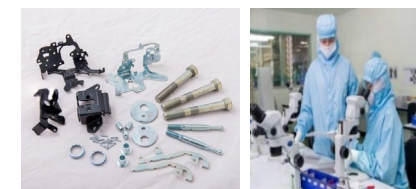
設備保全(メンテナンス)部門

インフラ(送電・管設備)部門

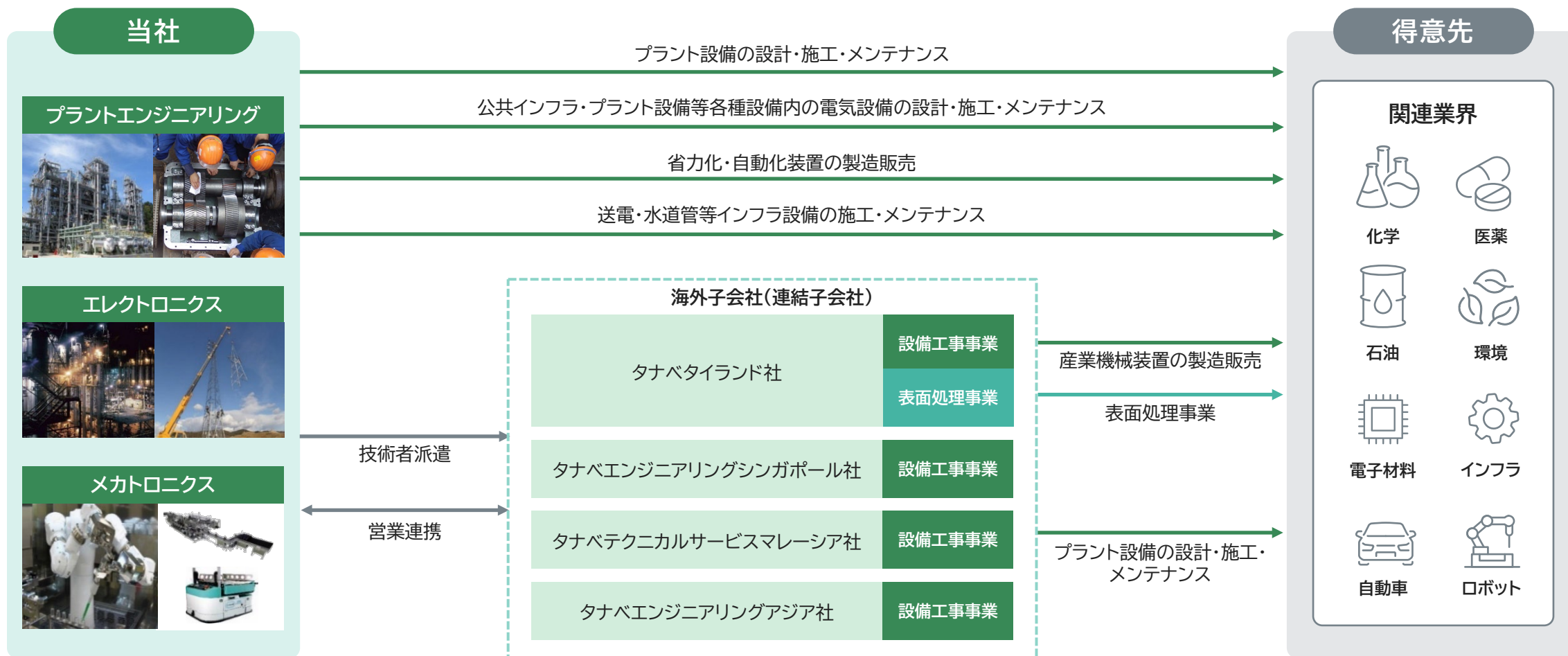
表面処理事業

自動車、HDD、電子部品、一般機械部品向けめっき加工を主とした表面処理を行う。様々な加工条件・ニーズに対応可能であり、高付加価値を提供する。

表面処理事業部門



化学・医薬・半導体・自動車等の産業向けプラントから自動化装置、および公共施設や送電鉄塔等の社会インフラまで多種多様な設備の設計・施工・メンテナンス等の事業を多角的に展開する

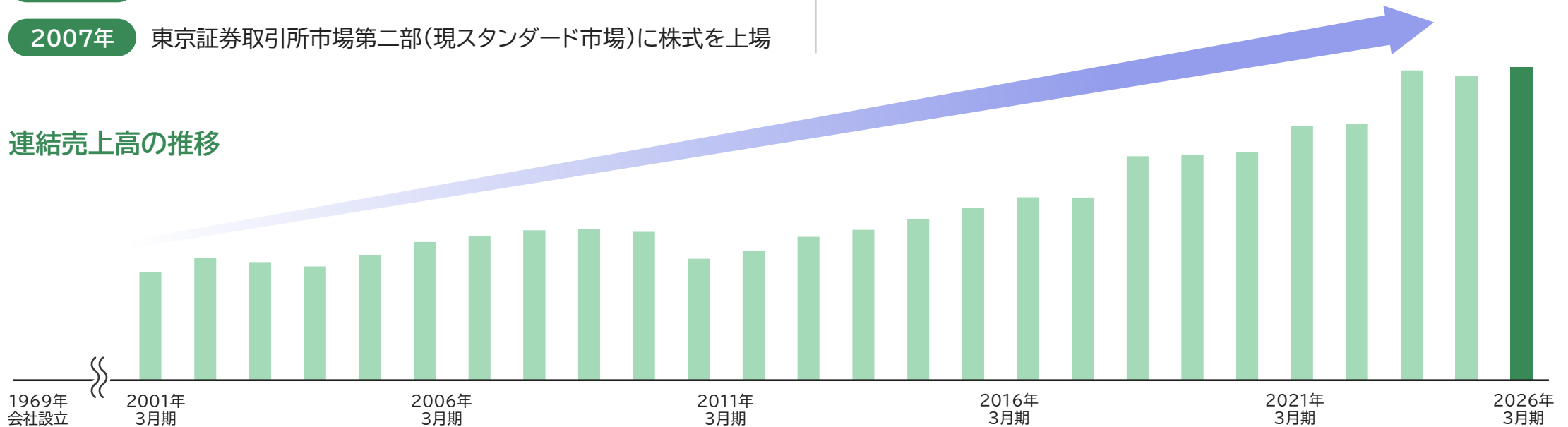


国内外にて事業・拠点を拡充し着実な成長を遂げ、2026年3月期は過去最高となる連結売上高を達成

- 1969年** 新潟県青海町(現糸魚川市)に本社、新潟県・千葉県・東京都に営業所を設置し会社設立
- 1986年** 中京初の拠点として名古屋営業所(現名古屋支店)を設立
- 1993年** 日本証券業協会に株式を店頭登録
- 1996年** タイに初の海外子会社を設立し、表面処理事業を開始
- 1998年** 埼玉技術センター(現メカトロ技術センター)を設立し、メカトロニクス事業を開始
- 2003年** 本社を新潟県上越市に移転
- 2007年** 東京証券取引所市場第二部(現スタンダード市場)に株式を上場

- 2010年** メカトロニクス事業第二拠点として姫路技術センター(現姫路支店)を設立
- 2014年** グリーンパワーTANABE東松山太陽光発電所を設立
- 2020年** 九州初の拠点として大牟田支店を設立
- 2024年** 2024年3月期において連結売上高500億円を達成

連結売上高の推移



01 | 会社概要 P3

02 | 決算説明 P9

03 | 中期経営計画「TRY2030」進捗 P24

- ・海外情勢等の影響により、顧客に投資時期を慎重に計る動きも見られ、受注高は前期を下回る
- ・施工効率の改善、リスク管理の徹底等により、営業利益および営業利益率ともに大幅改善

(単位:百万円)	2025年3月期	2026年3月期	対前期増減額	対前期増減比	2026年3月期 予想	予想比
受注高	53,135	46,210	△6,924	△13.0%	58,000	△20.3%
売上高	50,832	52,366	+1,533	+3.0%	53,000	△1.2%
営業利益	3,837	4,769	+931	+24.3%	4,000	+19.2%
営業利益率	7.5%	9.1%	+1.6pt	—	7.5%	+1.6pt
ROE	10.9%	13.0%	+2.1pt	—	10.4%	+2.6pt

主要部門である産業プラント部門は前期より横ばいで推移するも、設備保全部門およびメカトロニクス部門等の堅調な工事進捗により、全体の連結売上高は前期を上回る

(単位:百万円)

事業名	部門名	2025年3月期	2026年3月期			
		実績	実績	前期比	予想	予想比
		49,315	50,786	+3.0%	51,710	△1.8%
設備工事事業	産業プラント部門	22,741	22,618	△0.5%	24,255	△6.7%
	設備保全部門 (メンテナンス)	10,336	11,196	+8.3%	9,820	+14.0%
	電気計装部門	10,224	9,282	△9.2%	9,225	+0.6%
	メカトロニクス部門	2,215	3,922	+77.1%	4,145	△5.4%
	インフラ(送電)部門	2,645	2,271	△14.1%	2,480	△8.4%
	インフラ(管設備)部門	1,152	1,495	+29.8%	1,785	△16.2%
表面処理事業	表面処理事業部門	1,369	1,483	+8.3%	1,290	+15.0%
その他	その他	146	96	△34.4%	—	—
	計	50,832	52,366	+3.0%	53,000	△1.2%

(注)1. 連結子会社タナバタイランド社は表面処理事業と、機械装置はメカトロニクスに区分して表示しております。

2. 連結子会社タナベエンジニアリングシンガポール社、タナベテクニカルサービスマレーシア社およびタナベエンジニアリングアジア社は産業プラントに含めて表示しております。

3. 事業部門「その他」に含めていた鑄造用工業炉部門につきましては、当連結会計年度において事業を廃止いたしました。

海外情勢等の影響により、顧客に投資時期を慎重に計る動きも見られ、受注高は前期より減少も、繰越案件をはじめとした工事の進捗は堅調に推移し、売上高は前期並みを確保

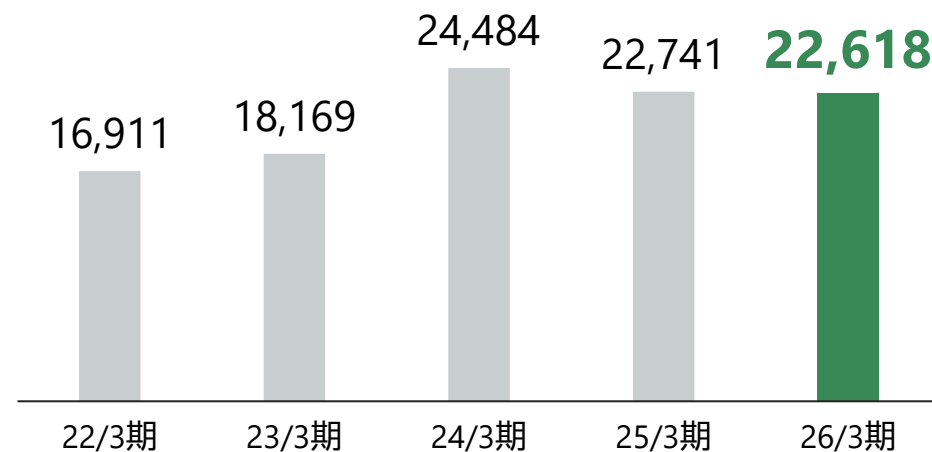
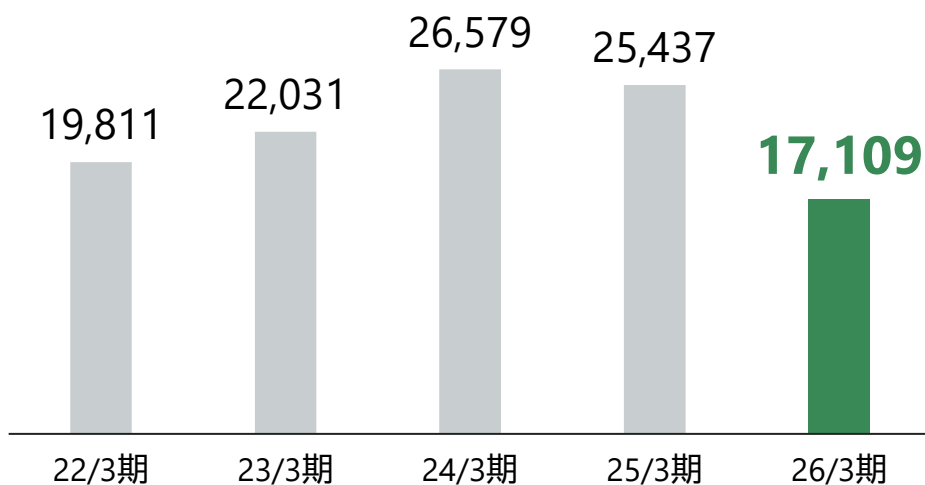
受注高

売上高



(単位:百万円)

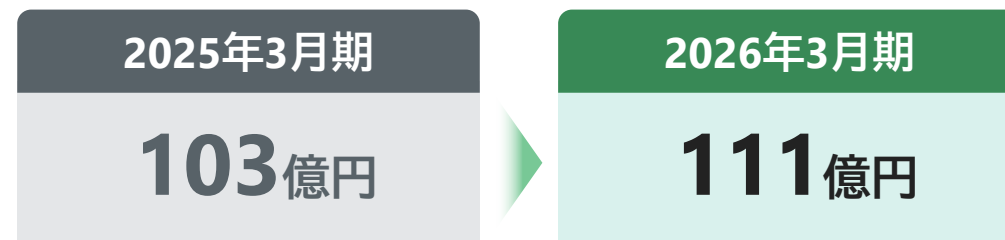
(単位:百万円)



工場設備の定期修繕工事を中心とした受注が好調であり、受注高および売上高ともに前期を上回る

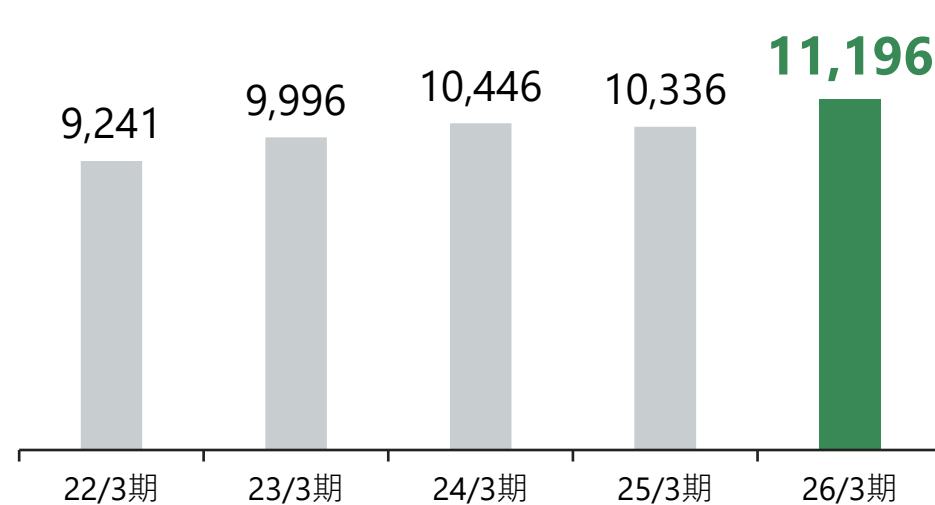
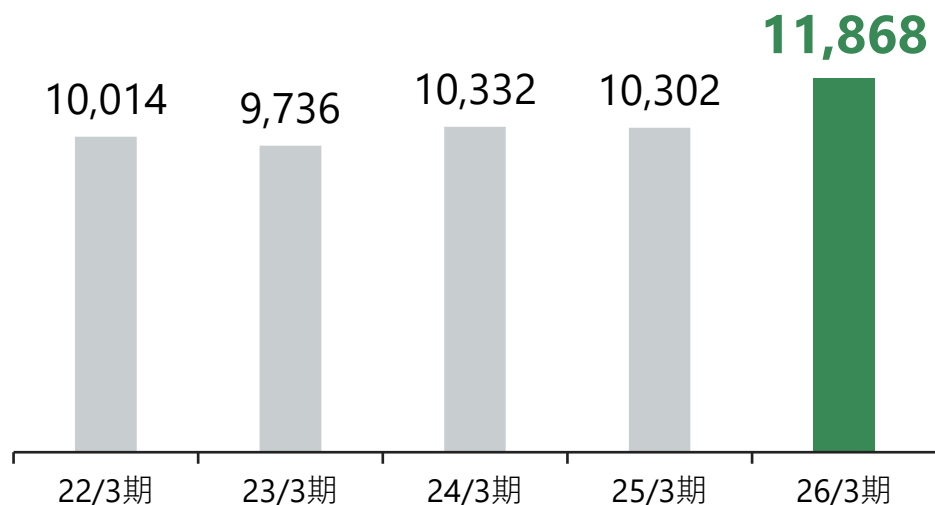
受注高

売上高



(単位:百万円)

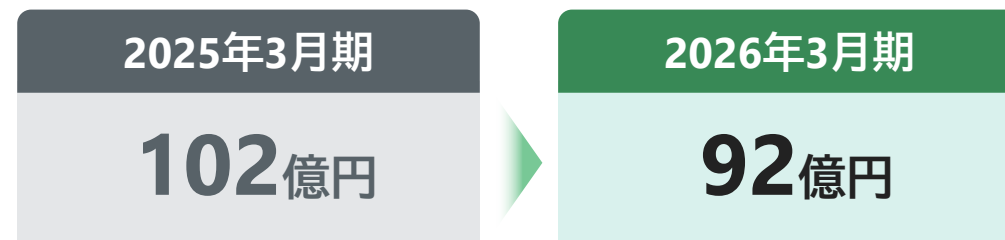
(単位:百万円)



産業プラント部門とのジョイントによる、プラント建設工事を中心とした受注があるも、受注高および売上高ともに前期を下回る

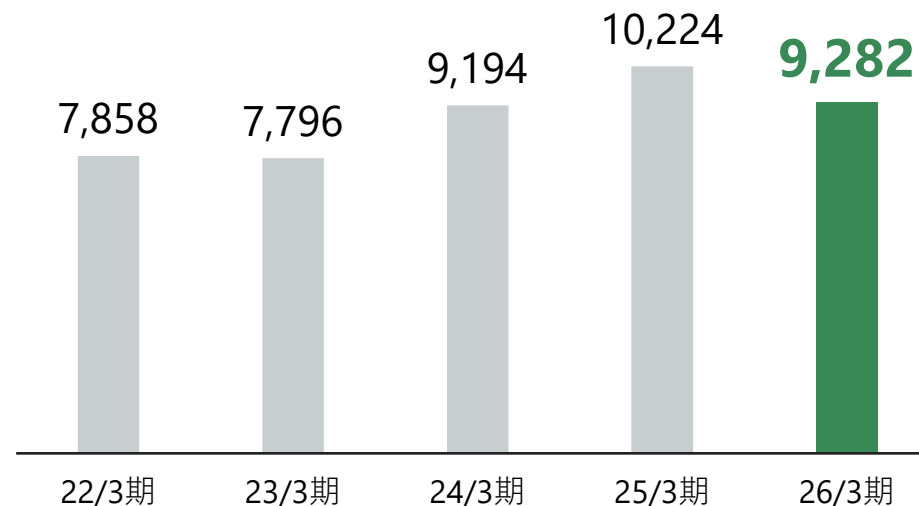
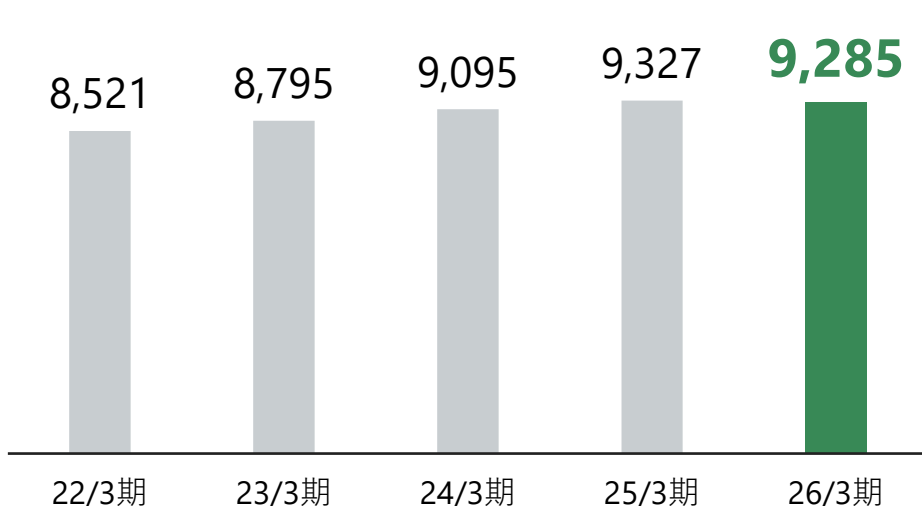
受注高

売上高



(単位:百万円)

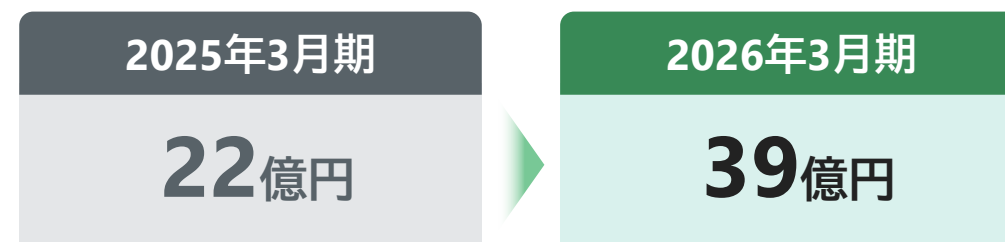
(単位:百万円)



充填ライン、各種自動化機器の受注があるも、受注高は前期を下回ったが、繰越案件をはじめとした工事の進捗が順調に進んだこともあり、売上高は前期を大幅に上回る

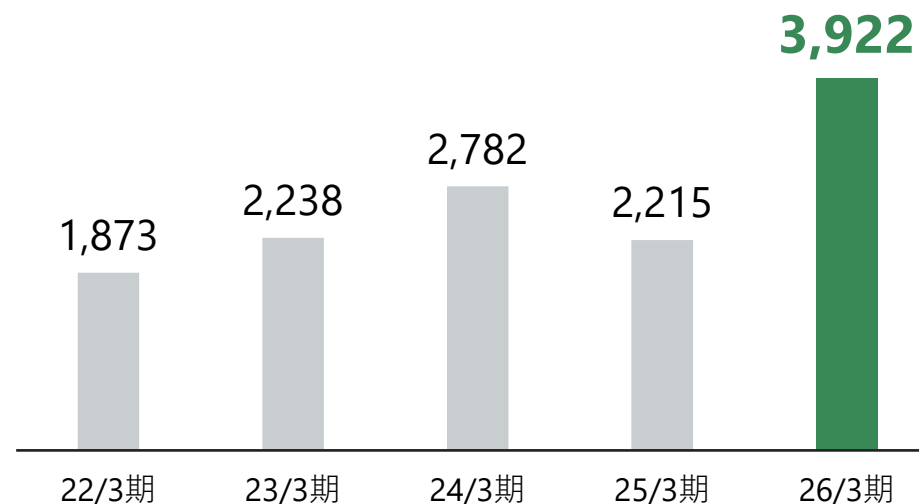
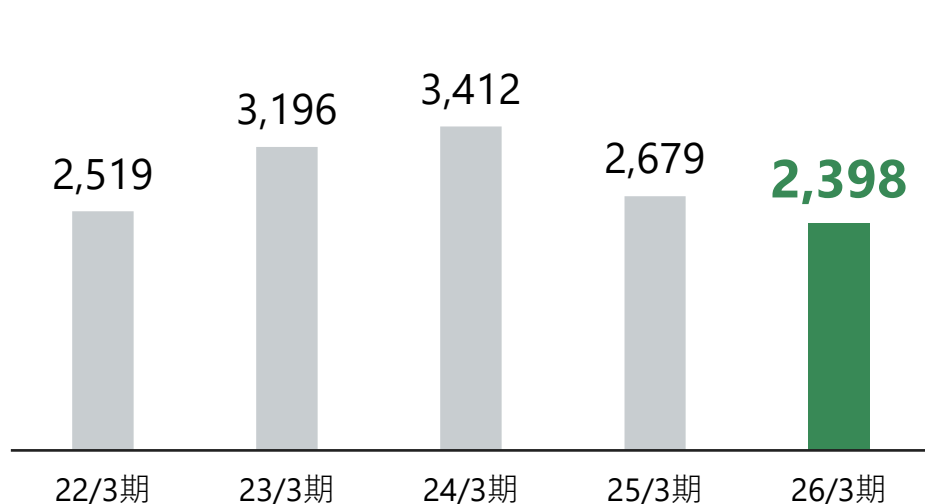
受注高

売上高



(単位:百万円)

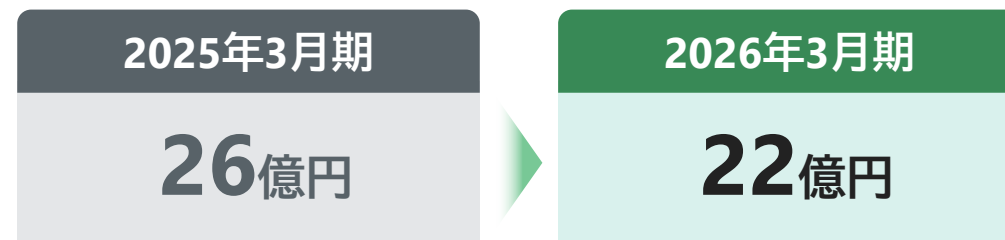
(単位:百万円)



電力会社の設備保守等の受注があるも、受注高および売上高ともに前期を下回る

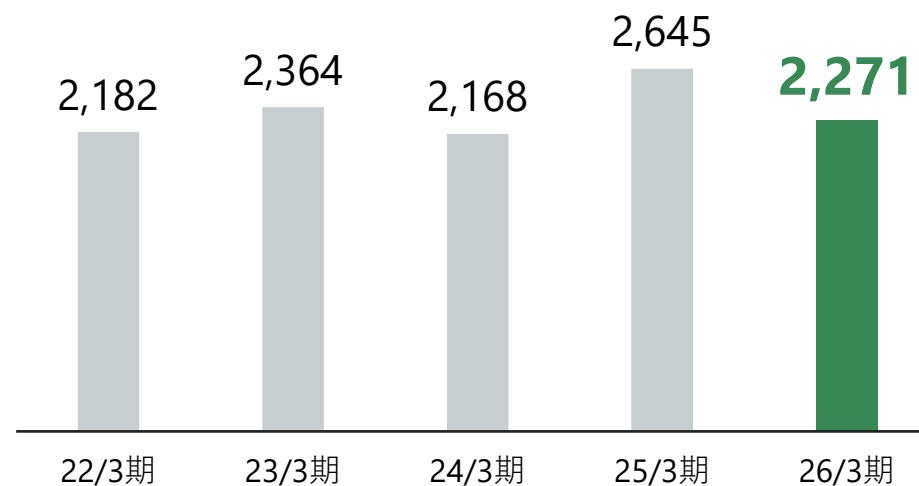
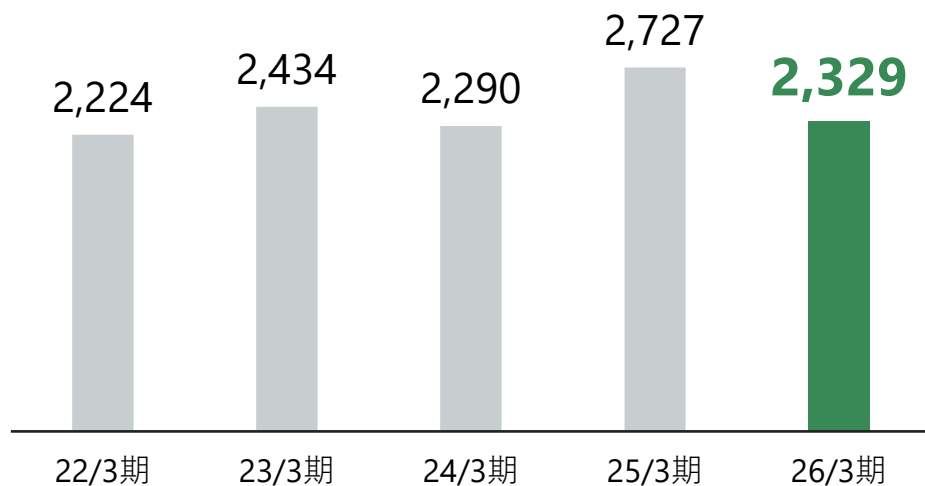
受注高

売上高



(単位:百万円)

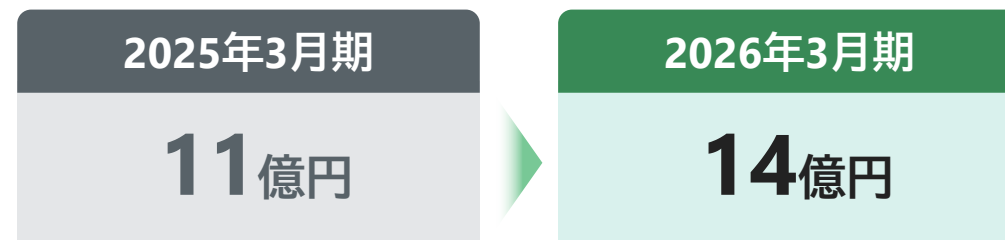
(単位:百万円)



インフラ設備の維持更新等を中心とした受注があり、受注高および売上高ともに前期を上回る

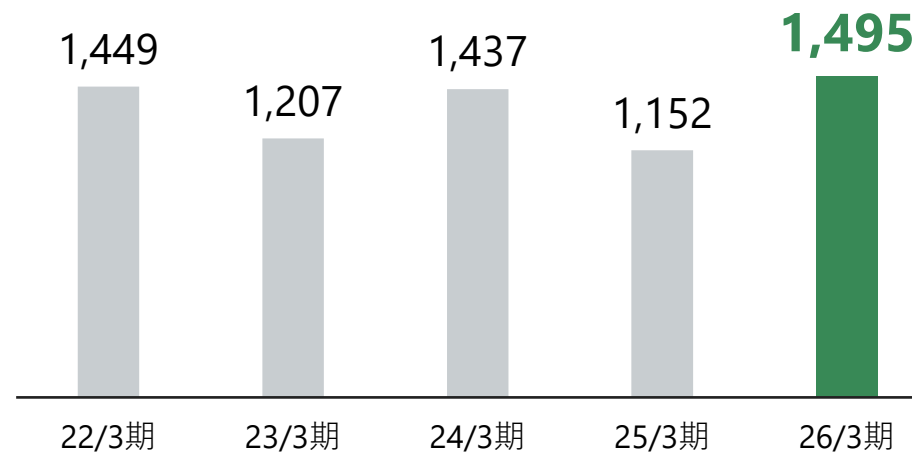
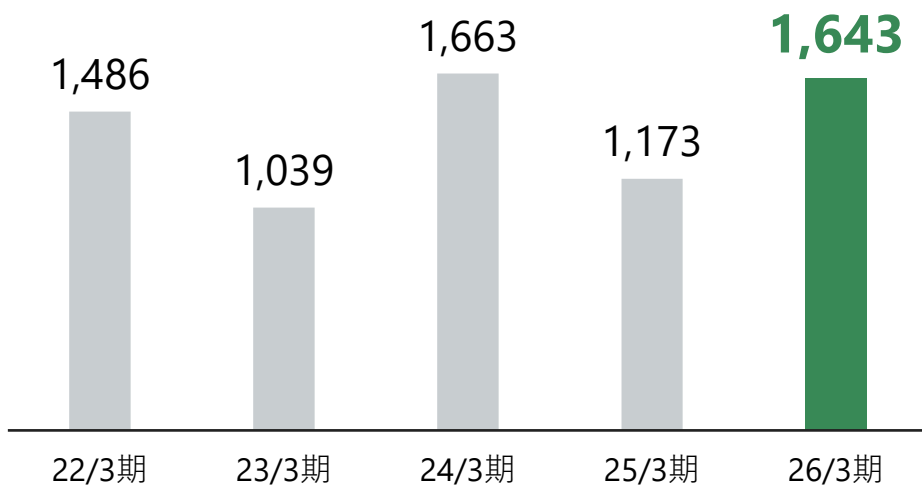
受注高

売上高



(単位:百万円)

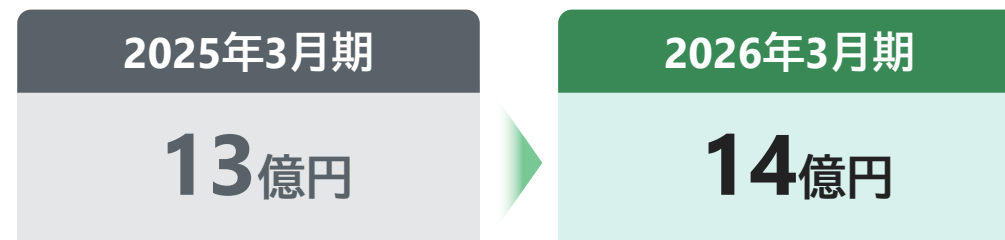
(単位:百万円)



自動車向け・HDD向けの表面処理は全般的には横ばいながら、EV向けは堅調であり、受注高および売上高ともに前期を上回る

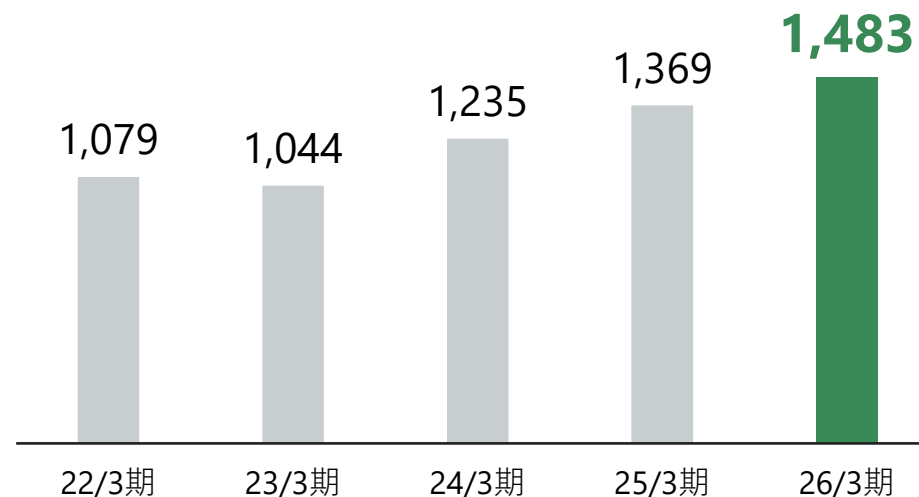
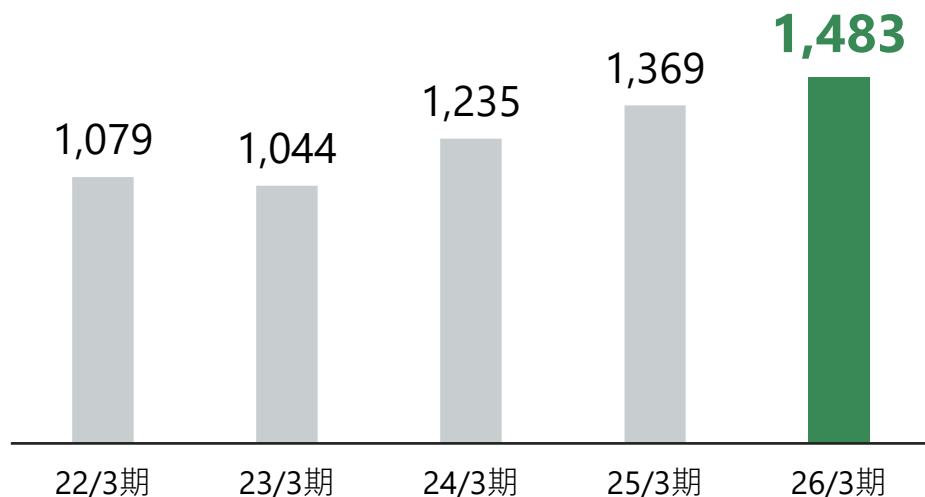
受注高

売上高



(単位:百万円)

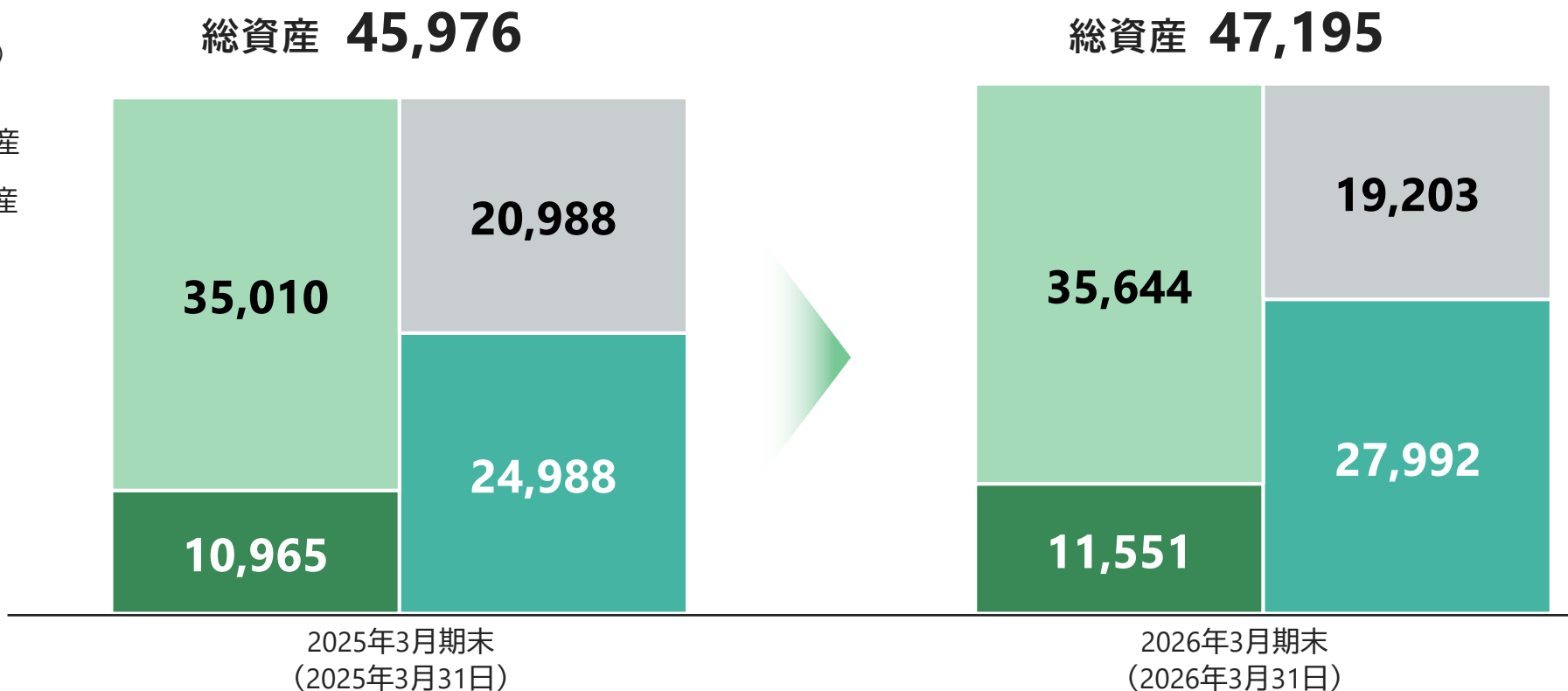
(単位:百万円)



- 流動資産：「受取手形・完成工事未収入金等」の増加
- 固定資産：「建物・構築物」の増加、「機械、運搬具及び工具器具備品」の増加
- 負債：「未成工事受入金」の減少

(単位:百万円)

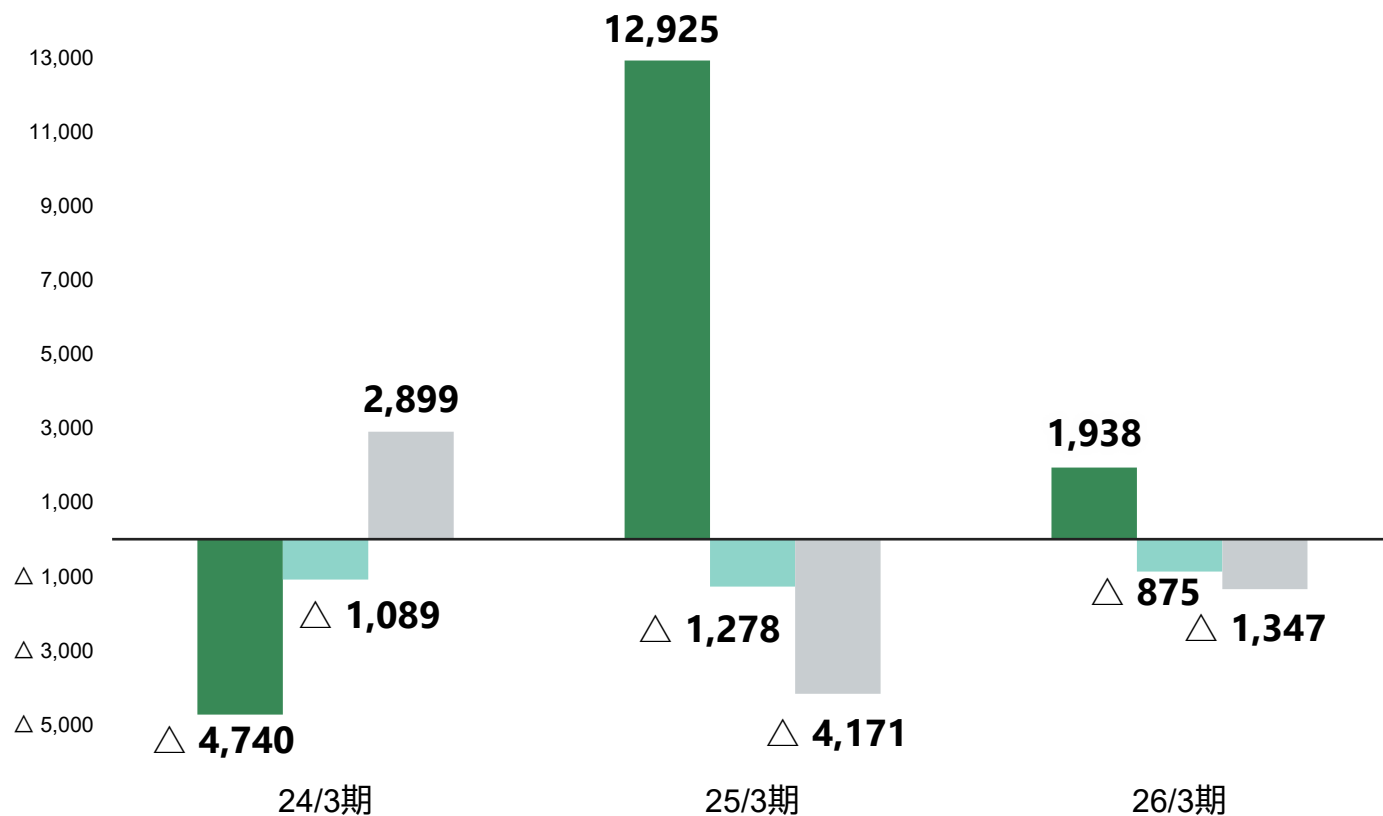
- 流動資産
- 固定資産
- 負債
- 純資産



現金及び現金同等物の期末残高は、前期末より248百万円減少し、10,601百万円にて着地

■ 営業キャッシュ・フロー ■ 投資キャッシュ・フロー ■ 財務キャッシュ・フロー

(単位:百万円)



2025年3月期との比較

営業キャッシュ・フロー +19億円

税金等調整前当期純利益 +47億円

投資キャッシュ・フロー △8億円

有形固定資産の取得による支出 △7億円

財務キャッシュ・フロー △13億円

配当金の支払額 △9億円

現金及び現金同等物の増減額 △2億円

	24/3期	25/3期	26/3期
設備投資	11.3億円	13.0億円	7.1億円

(設備投資=有形固定資産の取得による支出)

「TRY2030:ステージ I」事業方針

組織改革等による事業・経営基盤の見直しおよび人的資本拡大に努め、
業績拡大および利益率向上への下地を構築する

(単位:百万円)	2026年3月期	2027年3月期 予想	増減額	増減率
受注高	46,210	57,000	+ 10,790	+ 23.3%
売上高	52,366	50,000	△2,366	△4.5%
営業利益	4,769	3,850	△919	△19.3%
営業利益率	9.1%	7.7%	△1.4pt	—
ROE	13.0%	9.4%	△3.6pt	—

2027年3月期は、物価上昇や金融政策の変化に伴う景気減速懸念、米国の通商政策や中東情勢が及ぼす国内外経済への影響が想定され、連結売上高500億円にて着地と予想

(単位:百万円)

事業名	部門名	2026年3月期	2027年3月期	
		実績	予想	比
設備工事事業		50,786	48,600	△4.3%
	産業プラント部門	22,618	20,400	△9.8%
	設備保全部門 (メンテナンス)	11,196	11,500	+2.7%
	電気計装部門	9,282	9,000	△3.0%
	メカトロニクス部門	3,922	4,000	+2.0%
	インフラ(送電)部門	2,271	2,200	△3.1%
	インフラ(管設備)部門	1,495	1,500	+0.3%
表面処理事業	表面処理事業部門	1,483	1,400	△5.6%
その他	その他	96	—	—
	計	52,366	50,000	△4.5%

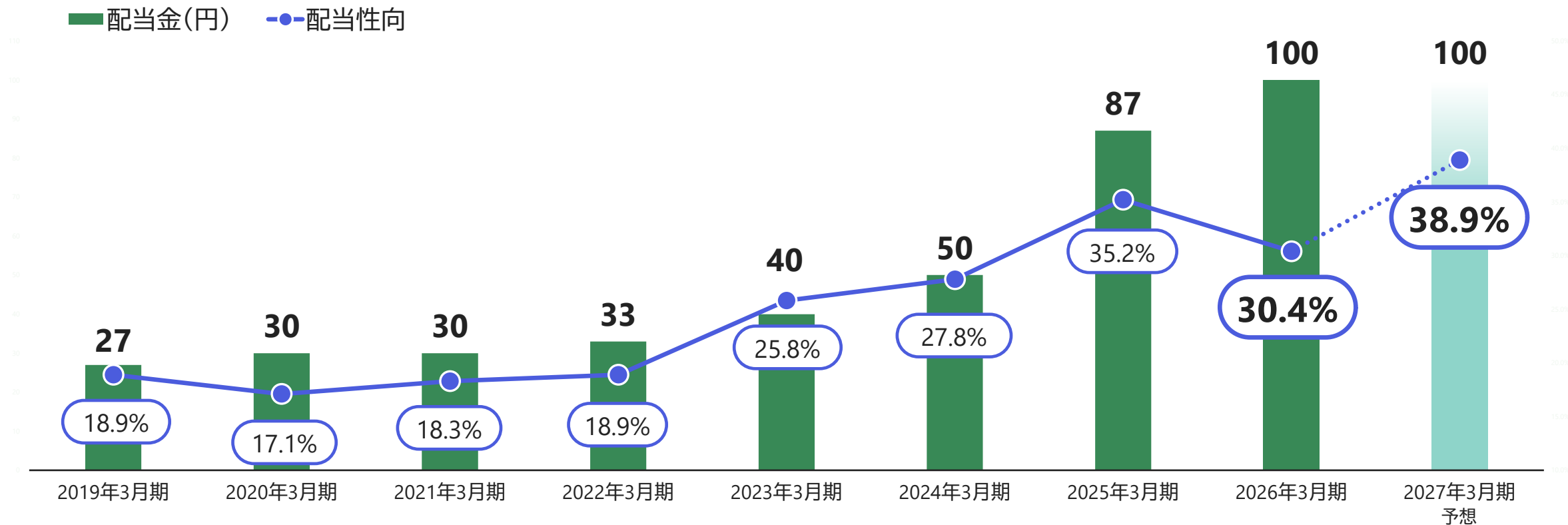
(注)事業部門「その他」に含めていた鋳造用工業炉部門につきましては、当連結会計年度において事業を廃止いたしました。

配当方針

連結配当性向35～40%を目安に、安定的な配当および持続的な増配を目指し配当実施

配当実績・予定

- 2026年3月期は1株当たり配当金100円、配当性向30.4%の予定
- 2027年3月期は1株当たり配当金100円、配当性向38.9%と予想



01 | 会社概要 P3

02 | 決算説明 P9

03 | 中期経営計画「TRY2030」進捗 P24

経営理念

お客様・従業員・株主・業務関係者そして社会の、
みんなに喜ばれる親切で的確な仕事をしよう

**TANABE
Vision**

「エンジニアリングの力で、産業社会と地域社会の発展に貢献する」

コーポレートスローガン

ものづくりのための、モノづくり。

中期経営計画
TRY2030
(FY2024-FY2029)

事業領域における全てのフェーズでお客様に貢献する
総合エンジニアリング会社を目指す

- ステージⅠ：体制強化・変革期
- ステージⅡ：再成長期

2030年3月期連結売上高700億円の達成に向け、
ステージ I では体制強化・変革を実行する

ステージⅡ:28/3期-30/3期

再成長期

受注高 **800億円**

売上高 **700億円**

営業利益率 **8%以上**

ROE **12%以上**

ステージ I :25/3期-27/3期

体制強化・変革期

受注高 **630億円**

売上高 **550億円**

営業利益率 **7%以上**

ROE **10%以上**

前中期経営計画 TRY500:
19/3期-24/3期

成長促進期

受注高 **547億円**

売上高 **518億円**

営業利益率 **5.2%**

ROE **8.7%**

TRY2030のゴール

- 連結売上高700億円の達成
- 事業領域における全てのフェーズでお客様に貢献する総合エンジニアリング会社

事業戦略

① 国内事業の進化

- EPC事業の強化(大型EPC案件の拡大と能動営業の実施)
- メカトロニクス部門の着実な成長・拡大
- 安定的な事業継続と付加価値づけによる収益率の向上

② 海外事業の再生

- 海外事業の売上拡大・収益改善

③ 新規事業の探索

- 時流の変化や先端領域を捉えた新規事業の探索

組織戦略

④ 組織・業務改革(事業基盤の底支え)

- 現場力・営業力の強化と継承に向けた人員体制拡充(設計・調達・施工機能補強)
- 時代と事業規模に即した組織・業務推進体制への深化
- M&A・業務提携の推進

基盤戦略

⑤ ESG対応・財務基盤の強化

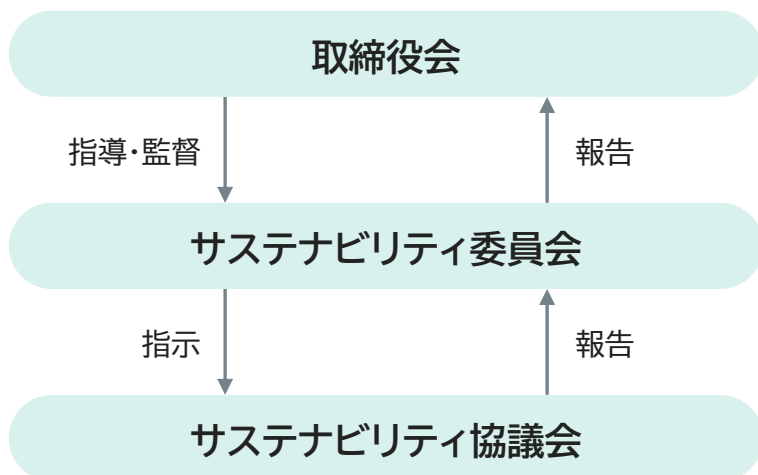
- カーボンニュートラルへの貢献施策の実行/各ステークホルダーとの共存共栄を意識した各種施策の推進
- 継続的な経営戦略の策定と事業部門への実効的な浸透・落とし込み
- 安定的かつ柔軟な資金調達
- 時代に即したリスク管理体制の整備・強化

サステナビリティ基本方針

技術やエンジニアリングを通じて未来のものづくりを支え、
「安心・安全・豊かなサステナブル社会の実現」に貢献する

推進体制

- サステナビリティ委員会を設置し、委員長に代表取締役社長を任命
- 委員会は経営会議メンバーで構成され、年2回取締役会に対して報告
- 下部組織として協議会を設置し、各現場での活動の取組を推進



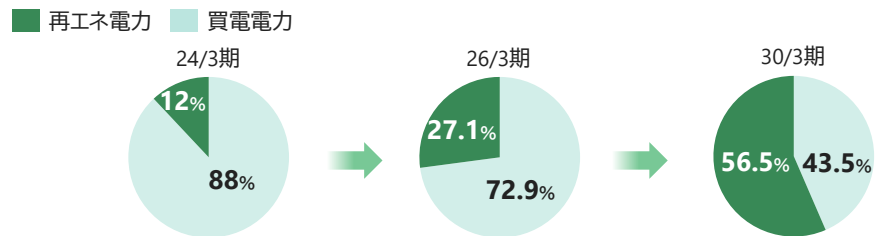
マテリアリティ

ESGの区分	マテリアリティ
E:環境	<ul style="list-style-type: none">カーボンニュートラル社会への貢献環境負荷に配慮した事業活動の推進
S:社会	<ul style="list-style-type: none">高品質で安心・安全なサービスの提供新事業創出による産業社会の発展への貢献購買・協力会社との共存共栄人材の確保と育成多種多様な人材が働きやすい職場環境の構築
G:ガバナンス	<ul style="list-style-type: none">コーポレートガバナンス体制の整備

※ マテリアリティに対する具体的施策については、当社HP (<https://www.tanabe-ind.co.jp/sustainability/materiality.html>) をご覧ください

環境

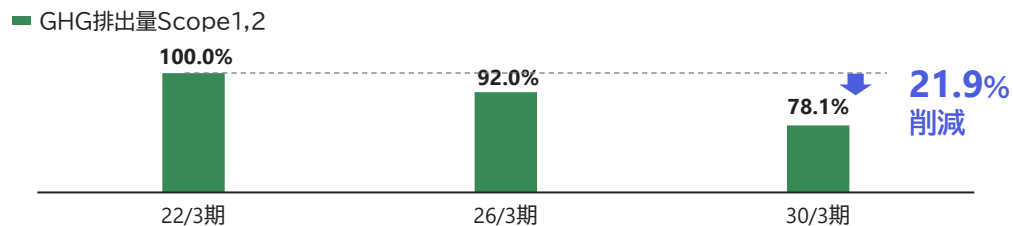
再生可能エネルギー電力比率50%以上



再生可能エネルギー電力比率向上施策事例

- ・ 太陽光発電設備設置拠点の拡大
- ・ グリーン電力への切替え

GHG排出量20%以上削減(2022年3月期比)



GHG排出量削減施策事例

- ・ 再生可能エネルギーの拡大
- ・ 省エネルギーの促進(社用車のCEV化含む)

社会

多種多様な人材が働きやすい職場環境の構築

- ・ 性別、国籍、障がいの有無を問わずに働ける会社を目指す
- ・ 従業員の納得感がある人事制度改革を施行し、エンゲージメントが高い会社に変革する
- ・ くるみん、健康経営優良法人の認定を目指す

施策

- ・ 女性役職者、外国人材増加に向けた取り組み
- ・ 人事評価制度改革の実施
- ・ 休暇を取得しやすい環境づくり
- ・ 仕事と介護の両立支援

人材の確保と育成

- ・ 少子化が進む中、様々な採用手法を活用し安定的に人材を確保し育成を進める

施策

- ・ 人事担当部門の拡充
- ・ 教育訓練費の拡大
- ・ 教育計画に沿った資格取得の推奨、最終合格者数の分析・サポート
- ・ 技術・技能の力量向上の仕組み構築
- ・ 模擬プラントを活用した体験型教育の実施

※ その他具体的施策については、当社HP (<https://www.tanabe-ind.co.jp/sustainability/>) をご覧ください

本資料の利用に関する注意事項

- 本資料に含まれる業績見通し等の将来に関する記述は、弊社が現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいており、その達成を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、様々な要因により異なる結果となる可能性があります。弊社は将来予測に関するいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。
- 目的を問わず、本資料を無断で引用または複製することを禁じます。
- 本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定はご自身の判断において行われるようお願いいたします。

本資料に関するお問い合わせ先

田辺工業株式会社

TEL:025-545-6500

Mail:webother@tanabe-ind.co.jp



田辺工業株式会社